

◆地域の取り組み◆

災害図上訓練 DIG



七月九日(土)区内で初めての「災害図上訓練DIG」が北郷会館で行われ、地域住民ら約八十人が参加しました。

これは訓練に参加した住民に、その体験を通じ防災の視点から地域の現況や必要なものを地図上で知り、災害時の協力的体制作りや防災意識の向上に役立ててもらおうと、北白石まちづくりセンターと北白石まちづくりセンターが開催したものです。

DIGとは英語の「災害」、「想像」、「ゲーム」の頭文字を取って名付けられた防災訓練で、大きな住宅地図の上にかぶせた透明シートに色マジックで地域の防災関連施設や注意個所などの情報を書



▲シートに情報を書き込む参加者▼



き込み、地域の災害を地図上で仮想体験するもの。実動訓練に比べ資材などの準備も容易で、話し合いながら地域防災の現状認識を深められるという特徴があります。

参加者は講師の北海道教育大学の佐々木貴子助教の説明に従い六班に別れて訓練に臨みました。作業は、
①地震発生時の行動や避難時の持ち物をグループで集約。
②地図上の透明シートに避難場所や病院、危険個所などを色マジックで書き込み。
③図面上で避難ルートをたどり自分の行動を仮想体験。の三行程で進められました。講師から過去の災害時の参考事例や、水道・消防など関係機関の担当者から具体的な防災体制の説明などもあり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

消防団



自分たちの分たちで守る、との気概で、他に本業を持つ傍ら地域の安全を守るために活動しています。

災害発生時には消防隊と一体となって防災活動に従事するほか、普段は住民への火災予防や応急手当の指導、自主防災組織の指導育成などに取り組んでいます。

一本部と七分団に百九十九人が所属しています。

自主防災組織

町内会が、自分たちのまちを自ら守るために、情報連絡や消火、救出救護などの班を編成し、防災訓練や講習会を実施して災害に備えています。

区内には百三十三の組織があつて、組織率は九十七・八パーセントと市内で二番目の高さとなっています。

白石区防火委員会

地域住民の防火意識の普及と向上、自主防火管理による火災防止などを目的に、各町内会から選出された防火

委員で組織されています。防火啓発活動や防災実技研修会などを実施しています。

白石区災害防止協力会

地元企業として地域に貢献しようとして、区内の建設企業三十九社により組織されています。

災害発生時に重機や作業員を迅速に派遣し、被害の拡大防止と速やかな復旧を図るため、定期的に区と水防訓練などを実施しています。

昨年の台風十八号被災時には二十四社が出動するなど、これまで幾多の活動実績があります。

自主防災訓練



秋の火災予防運動に合わせ、東白石地区町内会連合会では、本番さながらに自主防災訓練を実施、多くの住民が参加しています。

今年十月十四日(金)万生公園(南郷通八丁目南)で実施する予定です。

このほかの町内会でも住民の防災意識向上のために防災訓練を実施しています。

防災運動会



都町内会では、防災への関心を持つてもらおうユニークな取り組み「防災運動会」を毎年開催しています。

今年は七月三日(日)に北都公園で開催し、住民約五百人が参加しました。担架を使ったものや玉入れ用の玉を水にみためたバケツリレーなどを楽しみました。

少年消防クラブ



小学校四、六年生の児童に、家庭や地域における火災予防の啓発活動参加などを通じ、防災意識を身に付けてもらうため組織されています。

五クラブで百七人の児童が活動に取り組んでいます。

幼年消防クラブ

幼少時から防火への意識を培ってもらおうと、幼稚園の年長児を対象に組織されています。

五幼稚園で六百五十一人の園児が活動しています。